

シロナガスクジラ 南極海・南氷洋

Blue Whale, *Balaenoptera musculus*

関係国際機関

国際捕鯨委員会 (IWC)

生物学的特性

- 世界に 3 亜種: 南北の各半球の通常型、ピグミーシロナガス
- 寿命: 110~120 歳
- 成熟開始年齢: 10 歳頃
- 繁殖期・繁殖場: 冬、低緯度海域
- 索餌期・索餌場: 夏、南氷洋
- 食性: オキアミなど
- 捕食者: シャチ

利用・用途

刺身、鯨油など



南極海での通常型シロナガスクジラ
(Phot. by F. Kasamatsu)

最近一年間の動き

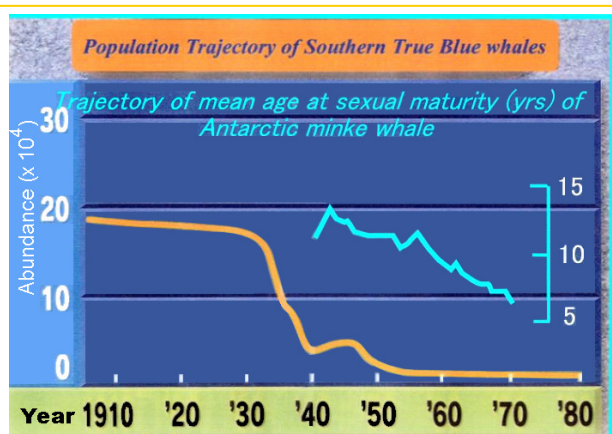
2006 年6月にセントキッツ・ネービスで開催された国際捕鯨委員会 (IWC) 科学委員会の年次会議において本種の包括的資源評価が開始された。

漁業の特徴

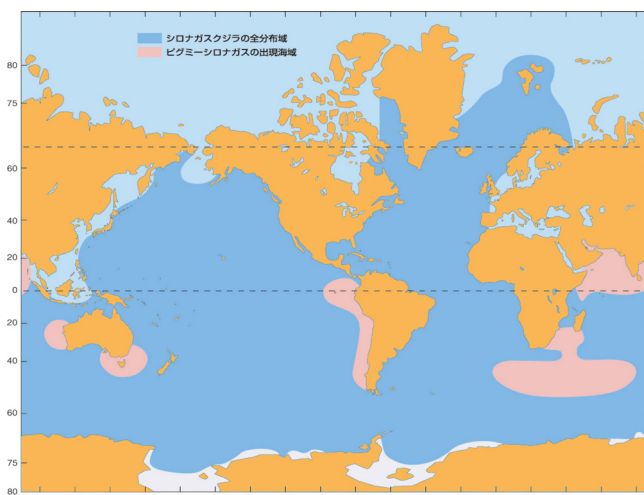
本種は、近代捕鯨成立以後の主要対象種で、1904~1965 年まで南半球の各国基地に加え捕鯨工船の考案によって誕生した母船式捕鯨によって多く捕獲された。これらの捕鯨業の管理は、第二次世界大戦以後は IWC によって行われている。我が国は同委員会に 1981 年に加盟した。IWC は 1982 に採決した商業捕鯨のモラトリアムによって、現在全世界の商業捕鯨を停止している。

漁獲の動向

1904 年、ノルウェーが近代式捕鯨を南氷洋海域で開始したことによって本海域の本種の漁獲が開始された。本種は開始当時から主要鯨種であり、IWC が初期に導入していた BWU 単位制度もこの鯨種の産油量を基準に定められていた。南氷洋捕鯨は 1920 年代に最初の隆盛期を迎え、この時期に南氷洋での通常型シロナガスクジラの捕獲頭数は年間 2 万頭を超えるようになり、1930/1931 漁期には史上最高 5 ヶ国 41 船団が出漁し、これも史上最高の 29,410 頭を捕獲した。しかし、この期以降、第二次大戦中の休漁期はあるものの、通常型シロナガスクジラの資源は減少を続けた。1959 年からは別亜種のピグミーシロナガスクジラの捕獲を始めたものの、資源状況の悪化は著しく、1964/1965 年漁期からは南半球全域において捕獲が禁止され、現在においても捕獲は再開されていない。



南半球の通常型の資源低下とミナミンククジラの性成熟年齢の経年的低下(加藤 1998)



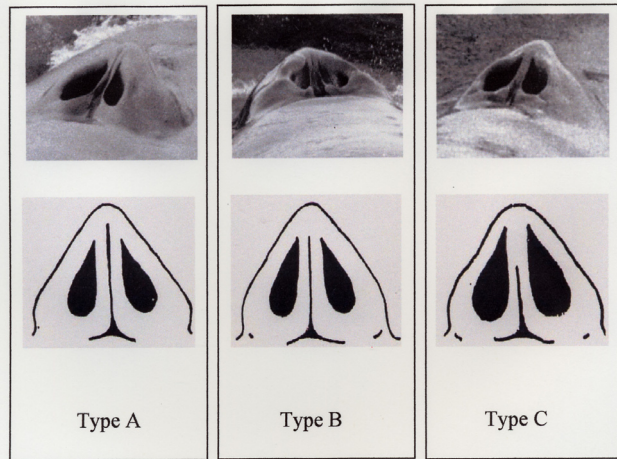
通常型(濃青色)とピグミーシロナガス(ピンク色)の分布
(Kato et al. 1995 を改変)

資源状態

南半球産シロナガスクジラは最も資源が減少している系群の一つであり、IWCが実施したIDCR(国際鯨類調査10カ年計画)目視調査の結果をもとにIWCが合意している資源量(2002年時点)は、通常型の資源量は400~1,400頭、ピグミーシロナガスでも5,700頭に過ぎない。しかし、IWC科学委員会メンバーによる最新のデータ解析によれば、通常型の1996年時点の資源量は1,700頭と上方修正され、年率7.3%で資源が回復に向かっている。もっとも、このような改訂が行われたとしても、現在資源レベルは初期資源の僅か0.7%に過ぎない。この要因には生態的競合種のクロミンククジラの台頭もあると考えられており、シロナガスクジラの回復に向け、鯨種間の種間関係を更に明らかにする必要がある。

管理方策

IWCは商業捕鯨のモラトリアムを行う一方で、対象資源の包括的資源評価を実施している。現在、その評価は南半球産ヒゲクジラ類について進行中で、シロナガスクジラについては2006年に開始することが2005年のIWC年次会議科学委員会において合意された。本種は改訂管理方式(RMP)の対象だが、資源状態が極度に悪化しており、むしろ国際的視野からIWC加盟国全体で資源の実状を分析し、資源の回復をはかることが肝要であり、低い資源水準からも資源の回復が十分可能で、持続的利用と資源保護の両立が図れることの実例として示すべきであろう。この面からもIWC科学委員会が推進するシロナガスクジラ回復計画の推進が必要となる。また、生態的競合種であるミナミミンククジラの管理との関連も検討すべきである。



亜種	頻度		
	Type A	Type B	Type C
ピグミー	17	7	1
通常型	0	12	0
Chi-square	Chi-square = 16.8253 P = 0.0002		

鼻孔のタイプと亜種別の出現頻度 (Kato et al. 2002)

資源評価まとめ

- 目視資源量は1,700頭
- 年率7.3%で増加
- 初期資源量の0.7%

資源管理方策まとめ

- IWC改訂管理方式の潜在的対象種
- さらに資源回復を行えば、低水準資源からの回復と利用と保護の両立の実例となりうる
- 生態的に競合する鯨種間の関係の解明がさらに必要

シロナガスクジラ(南極海・南氷洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	極めて低位
資源動向	増加
世界および我が国の漁獲量(最近5年)	IWCによって捕獲停止中